



[www.nakamichi-leasing.co.jp](http://www.nakamichi-leasing.co.jp)

**中道リース株式会社**

(証券コード 8594)



代表取締役社長 関 寛

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当社の第46期(平成29年1月1日~12月31日)の事業の概況と決算のご報告を申し上げます。

上により受注高ベースで目標額を達成することができました。

また、企業倒産件数は引き続き減少傾向にあり、更に厳正な与信審査を維持することで信用コストは低い水準で推移いたしました。

管理部門におきましては、資金調達面では、新規取引、既取引の深耕を図り量的拡大を目指すとともに、安定的かつ良質な資金を調達するためシンジケートローンの組成による資金調達を実施いたしました。

その結果、当事業年度の業績は総受注高39,978百万円(前事業年度比104.6%)、売上高38,277百万円(同105.3%)、経常利益826百万円(同127.1%)、当期純利益534百万円(同112.3%)となりました。

## ■ 営業の経過及び成果

当期におけるわが国経済は、政府による継続的な経済政策および日銀による金融緩和等により、企業収益や雇用・所得環境の改善基調で推移いたしました。しかしながら、米国政権の政策動向や東アジア地域の情勢不安などによる世界経済の不確実性の影響もあり、依然として不透明な要因が残る状況が続いております。

このような状況のなか当社は、創業50周年を見据えて一昨年策定した「平成28年度~平成30年度中期経営計画」の中間年度として、計画に掲げた経営目標を達成するため、組織体制を一部変更し、営業資産の増強、営業目標の完全達成を目指してまいりました。

営業部門におきましては、群馬県を主たる営業エリアとする高崎支店の新設や、発足から6年を経過したバス事業特販課のバス関連営業部への昇格等、積極的に営業活動を展開してまいりました。更に営業推進企画部に保険営業担当を配置し、保険営業の強化を進めてまいりました。スペースシステム事業部は保有資産の効率的運用と新規開拓を図ってまいりました。メディカルサポート開発室から改称したヘルスケアサポート事業部は営業品目の拡大を目指し、子会社メッドネクスト株式会社においては更なる新規顧客開拓と業務拡大を図りました。以

## ■ 今後の見通しと対処すべき課題

今後の見通しといたしましては、緩やかな景気回復の動きが続き、また東京オリンピックを控えた需要の盛り上がりもあり、雇用・所得情勢および企業業績の改善が継続することが期待されます。しかしながら北朝鮮情勢の緊迫化などの地政学リスク、欧米の政治的な混乱、中国の景気失速など、海外経済のリスク要因は多く、先行きが不透明な経営環境が続くことが予想されます。また、ここ数年低い水準で推移してきた信用コストの増加、更に金利情勢の変化による資金コストの上昇が懸念されます。

このような状況下で当社は、組織体制を一部変更し、営業資産の増強、営業目標の完全達成を目指します。

営業部門におきましては、東日本営業部を廃止するとともに、東北営業部に環境事業営業部と連携する地域営業推進室を新設し、東北地区の営業活動強化を図ります。また新商品新分野の営業展開も模索してまいります。昨年発足から25周年を迎えたスペースシステム事業部は引き続き保有資産の効率的運用と新規開拓を図っていきます。ヘルスケアサポート事業部は営業品目の拡大

を目指し、子会社メッドネクスト株式会社においては更なる新規顧客開拓と業務拡大を目指します。

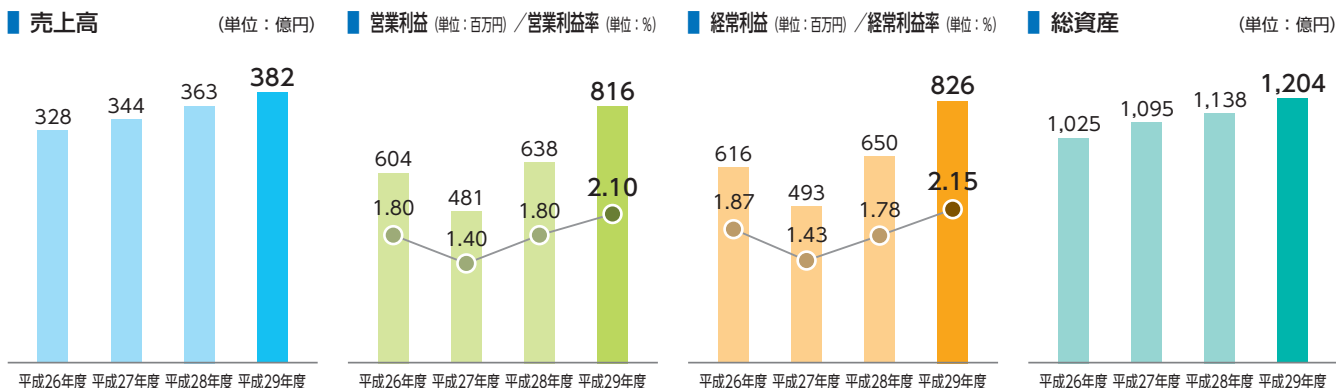
管理部門におきましては、業務の効率化を一層図るとともに部門間の連携を推し進めます。資金調達面では、引き続き新規取引、既取引の深耕を図るとともに、債権の流動化と社債などによる直接調達を推進し、量的拡大を目指します。

当社は創業よりの当社の重点方針である「健全経営・堅実経営」をあらためて認識するとともに、「社員の成長

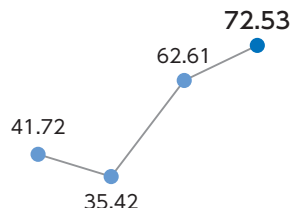
なくして会社の発展なし」の精神を継承し、「平成28年度～平成30年度中期経営計画」の最終年度の目標実現に尽力してまいります。また、創業50周年に繋がり平成31年度からスタートする「新中期経営計画」を策定いたします。

次期の業績見通しにつきましては、売上高39,000百万円、営業利益580百万円、経常利益590百万円、当期純利益370百万円を見込んでおります。

平成30年3月

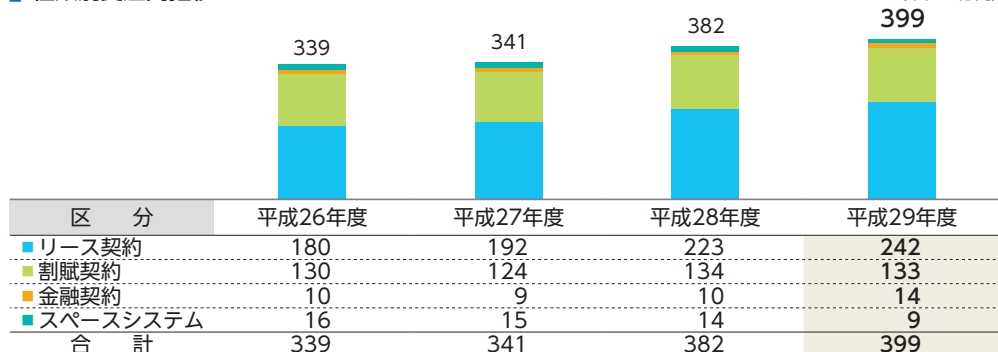


1株当たりの当期純利益 (単位：円)



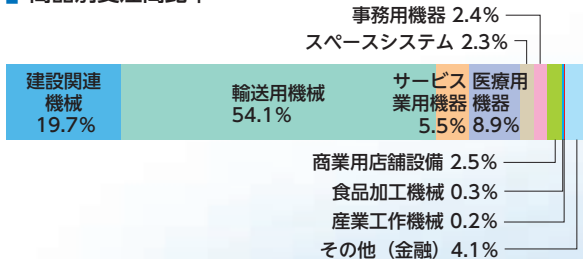
平成26年度 平成27年度 平成28年度 平成29年度

種類別受注高推移 (単位：億円)



総受注高 **399**億円(前期比 4.6%増)

■ 商品別受注高比率



■ 地域別受注高比率



■ 東日本営業部



44.0%

昨年度は特販課から関連営業部へと昇格した「バス事業」と、新規に開設した群馬県高崎市の「高崎支店」が共に好調に推移して通期目標大幅達成。ここ近年、若干伸び悩んでいた東北営業部も投資額目標比107%を達成する事が出来ました。また東京支社は中盤の案件枯渇もあったものの、後半の盛り返しにて収益額、投資額、共に目標をクリアする事が出来ま

した。

東日本営業部全体としては、まずまずの営業成果を上げられたものと考えます。

一方、不良債権も想定内以下で収まったところですが、次期以降を見据えると「人手不足」「燃料問題」「金利動向」等などの影響を危惧するところ です。

次期につきましても、株主様、お取引先様のご期待に応えるよう尽力し、営業目標の完全達成を目指して参ります。

■ 医療関連営業部



10.2%

医療関連営業部は札幌、仙台、東京に拠点を置き、北海道・東北・関東エリアをカバーすべく営業展開しております。近年続く厳しい環境の中、受注高・収益ともに前年実績を上回るも目標対比では99.4%、収益では98.6%といずれも僅かに及ばずという結果となりました。但し設立3年目となる仙台的東北営業課においては受注高、収益とも二年連続で目標を

達成し着実に基盤を築き、東京営業課も概ね遜色ない実績を上げました。札幌の営業課では若干の不足がありましたが終盤の奮闘は次年度への期待を膨らませるものでした。

医療業界ではこの4月に医療、介護ともに診療報酬の改定があります。主に薬価に対してのマイナス改定となりますが、各医療機関でも色々な手立てが必要となっています。その際には頼りになるリース会社としてお客様の設備投資の一助となるべく、そして今期も社業の発展に貢献し、株主様のご期待に応えるべく一層努力してまいります。

■ 北海道営業部



32.7%

当営業部は道内主要6都市に拠点を置き一年間営業を展開してまいりました。結果、当期は前期に比べて新規受注高は10億円増の130億円、収益は20百万円減の4億円弱、また貸倒額も最小限に抑える事が出来、厳しい環境下ながら一定の成果を上げる事が出来ました。次期につきましても北海道内の経済環境は大きな悪い材料は少ないながら当

部の得意分野のサプライヤーサイドには反転減の要素が想定されており、また金利の状況にも厳しい環境が続く事が予想されまだまだ不透明感を残しますが当期以上の受注高と収益を目指し株主様とお客様からの信頼と期待に応えられるよう部員一同 精一杯の努力を継続してまいります。

## ■ サービス事業・商業施設関連営業部



9.5%

当営業部は、専門営業部の一つとして食品加工や店舗流通、産業機械、事務機器、アミューズメント並びにレジャー産業等のサービス業界全般を担当しております。組織としては、北海道内（主に道央圏）を担当する「営業課」と、関東圏を担当する「東京営業課」の二課体制にて業務遂行し、両課共に全社の各営業部署に業界情報を発信する役割も併せ持っております。

当期においては、前期に引き続いて新規開拓営業を積極的に進めつつ、汎用性の高い物件に限定した商品の積極的な営業に注力致しました。通期目標に対する達成率では、投資額で119%、総粗利では103%と相應の成果を出す事ができました。不良債権の発生も僅少に留まりました。

次期につきましては、従前同様に「地域密着営業」によってお取引先様への訪問回数を増やし、それぞれのニーズに応えていく為の提案営業を行ってまいります。

各業界共に厳しい状況が続く事が予想されますが、営業部一丸となって邁進していく所存でございます。

## ■ 環境事業営業部



1.2%

環境事業営業部は、省エネルギー及びCO<sub>2</sub>削減に重点を置き、補助金を活用した省エネルギー機器のリース契約や、ESCO事業（エネルギーサービス契約）を中心に営業活動を行っております。

当期におきましては、北海道及び青森県内の自治体へ街路灯LED化事業の提案を行い、あらたに北海道内は4町にて、青森県内は1町にて、「防犯灯及び道路灯

LED化」事業を開始し、地域の安心安全と省エネルギーを実現いたしました。

次期におきましても、北海道・東北地区を中心とした営業活動となります。特に今年度新設された「東北営業部地域営業推進室」と連携し、より地域に密着した営業を行って参ります。

ご契約を通じて消費エネルギー及びCO<sub>2</sub>削減に貢献し、社業発展のため営業部一丸となって邁進していく所存でございます。

## ■ スペースシステム事業部



2.3%

スペースシステム事業部は地域に密着した近隣型複合商業施設の開発・取得・運営を行う商業施設デベロッパー事業部門でございます。

当期におきましては初の四国進出となる香川県丸亀市をはじめ、埼玉県所沢市・神奈川県綾瀬市・北海道札幌市・北海道幕別町での新規商業施設の受注を行い、一步一步ながら堅実に保有資

産の上積みが続けております。

また、初夏には事業開始25周年の節目を迎え、日頃より御世話になっている関係者様を札幌に招いて『感謝の集い』を開催させて頂きました。

次期におきましても商業施設の新規開発を中心として、既存施設のリノベーション、保有施設の効率的管理を実践しながら強固な事業基盤の構築に尽力すると共に、地主様やテナント様との信頼関係の更なる構築に励み、株主様の御期待に応えるよう努力して参りますので御期待願います。

## ■ ヘルスケアサポート事業

ヘルスケアサポート事業部は前身のメディカルサポート開発室から改組して2年目となりました。昨年度は従来業務の医療消耗品販売・給食、清掃などの施設管理業務・コンサル業務に加えて医療事務の受託もスタートし着実に事業の拡充を進めてまいりました。今年度も引き続き事業活動を推進し、お取引先の拡大と提供サービスの向上に努めてまいります。また今期で6期目をむかえます関連会社で当事業部と連携しておりますメッドネクスト株式会社も売上が前年度実績比で126.6%増と順調に推移しております。今年度も緊密な関係を維持しながら事業の拡大を進めて、安定した企業基盤の確立を目指してまいります。

2018年度は引き続き医療関連営業部との連携を強化し、ヘルスケア業界での相乗効果を図りながら、社業の発展に貢献し株主様のご期待にお応えできるように努力してまいります。

貸借対照表 (平成29年12月31日現在)

(単位：千円)

科 目	当 期	前 期
<b>資産の部</b>		
流動資産	102,755,718	96,085,111
固定資産	17,556,116	17,613,965
有形固定資産	13,991,973	14,210,074
無形固定資産	121,930	83,560
投資その他の資産	3,442,213	3,320,331
繰延資産	123,094	152,838
資産合計	120,434,927	113,851,915
<b>負債の部</b>		
流動負債	41,696,814	38,419,228
固定負債	71,631,248	68,358,857
負債合計	113,328,062	106,778,085
<b>純資産の部</b>		
株主資本	6,772,896	6,752,920
評価・換算差額等	333,968	320,909
純資産合計	7,106,865	7,073,830
負債・純資産合計	120,434,927	113,851,915

**POINT**

流動資産は前期に比べ6,671百万円増加し、102,756百万円となりました。これは主にリース投資資産が4,496百万円、割賦債権が1,016百万円、その他の営業貸付債権が450百万円増加したことによるものです。固定資産は前期に比べ58百万円減少し、17,556百万円となりました。これは主に有形固定資産の賃貸資産が215百万円減少したことによるものです。この結果、資産合計は前期に比べて6,583百万円増加し、120,435百万円となりました。

**POINT**

流動負債は前期に比べ3,278百万円増加し、41,697百万円となりました。これは主に一年内返済予定の長期借入金が1,929百万円、買掛金が716百万円、支払手形が442百万円増加したことによるものです。固定負債は前期に比べ3,272百万円増加し、71,631百万円となりました。これは主に長期借入金が4,422百万円増加し、債権流動化に伴う長期支払債務が706百万円、社債が650百万円減少したことによるものです。この結果、負債合計は前期に比べて6,550百万円増加し、113,328百万円となりました。

**POINT**

純資産合計は前期に比べ33百万円増加し、7,107百万円となりました。これは主にその他利益剰余金が増加したことによるものです。



## 損益計算書 (平成29年1月1日から平成29年12月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当 期	前 期
売上高	38,277,265	36,350,234
売上原価	35,319,920	33,711,973
売上総利益	2,957,345	2,638,261
販売費及び一般管理費	2,140,812	2,000,249
営業利益	816,534	638,012
営業外収益	24,240	28,601
営業外費用	14,910	16,980
経常利益	825,864	649,633
特別利益	19,734	184,989
特別損失	10,594	12,032
税引前当期純利益	835,004	822,591
法人税等合計	301,241	347,090
当期純利益	533,763	475,501

### POINT

当期の売上高は主にリース収入の増加により前期に比べ1,927百万円増加し38,277百万円となりました。販売費及び一般管理費は人件費、雑費の増加等により前期に比べ141百万円増加し、2,141百万円となりました。

この結果、営業利益は前期に比べ179百万円増加し817百万円、経常利益は前期に比べ176百万円増加し826百万円となりました。移転補償金等の特別利益を20百万円、固定資産除却損等の特別損失を11百万円計上し、当期純利益は前期に比べ58百万円増加し534百万円となりました。

## キャッシュ・フロー計算書(要旨) (平成29年1月1日から平成29年12月31日まで) (単位:千円)

科 目	当 期	前 期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△4,586,987	△6,056,489
投資活動によるキャッシュ・フロー	△56,969	△60,887
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,778,754	3,820,344
現金及び現金同等物の増減額	134,798	△2,297,032
現金及び現金同等物期首残高	10,907,062	13,204,094
現金及び現金同等物期末残高	11,041,860	10,907,062

### POINT

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益が835百万円となり、仕入債務の増加額1,158百万円、賃貸資産減価償却費883百万円等の増加に対し、リース債権及びリース投資資産の増加額5,025百万円、割賦債権の増加額1,039百万円、賃貸資産の取得による支出462百万円等の減少により4,587百万円の減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却による収入14百万円等の増加に対し、無形固定資産の取得による支出55百万円、定期預金の差引支出額18百万円等の減少により57百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の差引増加額6,331百万円、社債の発行による収入2,276百万円等の増加に対し、社債の償還による支出2,610百万円、債権流動化の返済による支出704百万円等の減少により4,779百万円の増加となりました。

この結果、当期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ135百万円増加し、11,042百万円となりました。

## 中道リースの広告活動

中道リースを広く皆様に知って頂くため、様々な広告活動を行っています。日経新聞広告を「地域の魅力を掘り起こそう!」という記事にて、行っています。

9月1日には、日本郵便株式会社北海道支社様より、エコーはがきの発行及び販売をいたしました。エコーはがきとは、はがきの一部を広告媒体として企業等に提供し、その広告料で1枚当たり5円安い価格で販売するはがきです。社会や地球環境の保全に貢献するため、様々な環境活動を実施していることを、コスモスの柔らかいイラストを通じて訴求するデザインとしました。

vol. 75 地域の魅力を掘り起こそう!

来運の水  
 斜里町来運(らいうん)公園のおめでたい水「来運の水」をご存知ですか。秀峰斜里岳の噴出が数十年の時を経て湧き出ていると言われ、湧出量は毎分約5t。水温は6℃程で夏は冷たく、冬でも凍りません。その名から、運が来て願い事がかなうと愛敬されています。元気を明日へー中道リースです。

元気からはじめます。中道リース  
<http://www.nakamichi-leasing.co.jp/>

日経新聞広告

vol. 76 地域の魅力を掘り起こそう!  
 北海道ムフの宝物さがしプロジェクト

住みたい町  
 北海道下川町は移住に力を入れています。移住支援に関する相談窓口「下川町移住サポートデスク」では専任の担当者が常駐し、人材バンクシステムによる仕事探しもスムーズ。温泉のそばで、ちょっと暮らしができるエコハウスもあります。元気を明日へー中道リースです。

元気からはじめます。中道リース  
<http://www.nakamichi-leasing.co.jp/>

郵便はがき

元気からはじめます。

中道リース

エコーはがきデザイン

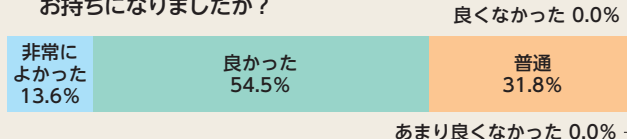


## 第45期アンケートのご報告

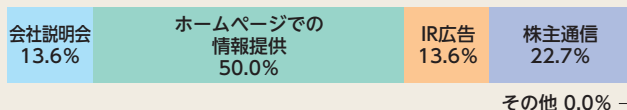
アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

第45期株主通信にて実施しました株主のみなさまを対象とした「アンケート」の集計結果の主なデータをご報告いたします。多くのみなさまのご協力を賜りましたことをあらためて感謝申し上げます。

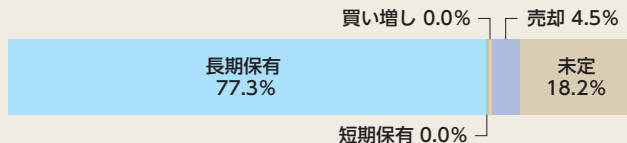
**1** 今回の「株主通信」をお読みいただいて、どのような感想をお持ちになりましたか？



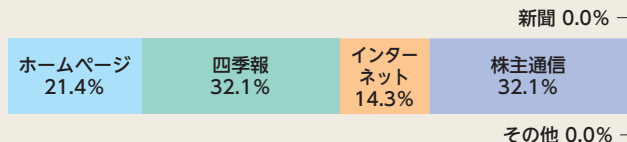
**2** 当社のIR活動について、特に充実を希望することを一つ選択してください。



**3** 今後の当社株式に関するお考えをお選びください。



**4** 当社に関する情報入手手段は何ですか。



**5** アンケートの中でいただいたご意見、ご要望の中からその一部をご紹介します。

1	・東証上場をめざしてください。	北海道 無職 60代男性
2	・業績の益々の向上を望む	北海道外 無職 60代男性
3	・東証への上場へ!	北海道外 自営業 30代男性
4	・優待制度があれば良い。九州リースが東証に上場した事をどう考えますか。	北海道外 無職 50代男性
5	・配当を増額してもらいたい。	北海道外 公務員・自営業 60代男性
6	・日経新聞最終ページの道内案内広告楽しく読ませていただいています。	北海道外 無職 70代以上男性

株主のみなさまからいただきました貴重なご意見・ご提言を真摯に受け止め、企業価値の向上及びIR活動の拡充に努めてまいりますので、今後とも更なるご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

## 会社の概況 (平成29年12月31日現在)

会社名 (英文)	中道リース株式会社 Nakamichi Leasing Co., Ltd.
本社	札幌市中央区北1条東3丁目3番地
設立年月日	昭和47年4月21日
主要な 事業内容	・各種物件のリース及び延払販売ならびに融資 ・不動産の売買、賃貸借ならびに仲介斡旋
従業員	148名
資本金	2,297.4百万円

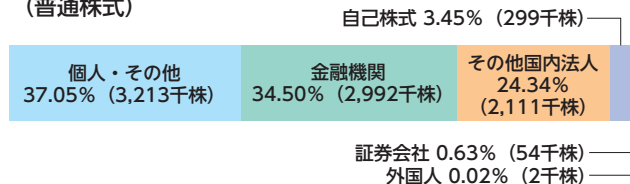
## 取締役及び監査役 (平成30年3月20日現在)

代表取締役	関 寛
取締役	西 中 秀 之
取締役	石 井 晃 司
取締役	遠 藤 龍 二
取締役	関 崇 博
取締役(社外)	向 田 直 範
取締役(社外)	中 田 美 知 子
常勤監査役	池 原 和 男
常勤監査役	高 橋 正 幸
監査役	村 木 靖 雄
監査役	柴 田 龍

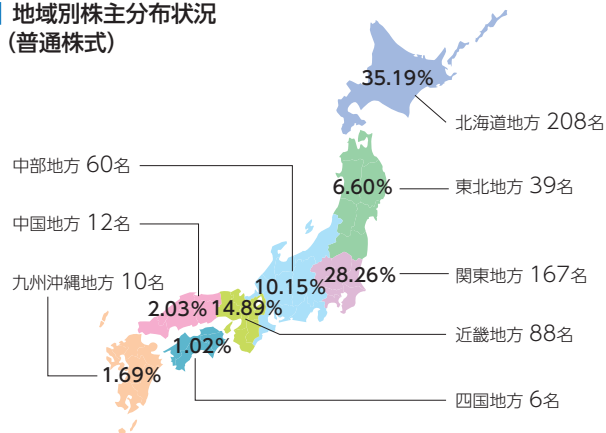
## 株式の概況 (平成29年12月31日現在)

発行可能株式総数	27,000,000株		
発行済株式の総数	普通株式	7,367,061株	(自己株式1,312,739株を除く)
株主数	普通株式	591名	
大株主			
株主名	持株数	持株比率	
関 寛	普通株式 1,509,700株	17.39%	
芙蓉総合リース株式会社	普通株式 831,000	9.57	
ノースパシフィック株式会社	普通株式 823,000	9.48	
株式会社北洋銀行	普通株式 410,728	4.73	
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	普通株式 293,000	3.38	
株式会社北海道銀行	普通株式 290,000	3.34	
三井住友海上火災保険株式会社	普通株式 253,000	2.91	
関 崇博	普通株式 189,000	2.18	
株式会社ほくやく	普通株式 100,000	1.15	
札幌信用金庫	普通株式 99,000	1.14	

### 所有者別株式分布状況 (普通株式)



### 地域別株主分布状況 (普通株式)



■ 本社	〒060-8539	札幌市中央区北1条東3丁目3番地 札幌スクエアセンタービル6階 TEL(011)280-2266・FAX(011)280-2727
■ 営業部	〒060-8539	札幌市中央区北1条東3丁目3番地 札幌スクエアセンタービル5階 TEL(011)280-2171・FAX(011)280-2002
■ 札幌支店	〒060-8539	札幌市中央区北1条東3丁目3番地 札幌スクエアセンタービル5階 TEL(011)280-2171・FAX(011)280-2002
■ 旭川支店	〒070-0031	旭川市1条通9丁目50番地3 旭川緑橋通第一生命ビル5階 TEL(0166)25-5301・FAX(0166)25-5325
■ 帯広支店	〒080-0010	帯広市大通南10丁目8番地 帯広フコク生命ビル6階 TEL(0155)25-2030・FAX(0155)25-2028
■ 函館支店	〒040-0011	函館市本町7番18号 函館道銀ビル7階 TEL(0138)56-1040・FAX(0138)56-5020
■ 苫小牧支店	〒053-0022	苫小牧市表町5丁目4番7号 苫小牧海晃第一ビルディング2階 TEL(0144)32-1654・FAX(0144)33-3185
■ 釧路営業所	〒085-0015	釧路市北大通11丁目1番地2 釧路第一生命ビル8階 TEL(0154)31-8800・FAX(0154)25-2234
■ 東京支社	〒105-0013	東京都港区浜松町1丁目27番14号 サン・キツカウビル3階 TEL(03)3459-0911・FAX(03)3459-0916
■ 大宮支店	〒330-0803	さいたま市大宮区高鼻町1丁目31番地1 TOPS大宮ビル5階 TEL(048)641-9933・FAX(048)641-9922
■ 横浜支店	〒220-0022	横浜市西区花咲町7丁目150番地 ウェインズ&イッセイ横浜ビル10階 TEL(045)410-2235・FAX(045)410-2236
■ 千葉支店	〒260-0013	千葉市中央区中央3丁目3番1号 フジモト第一生命ビルディング9階 TEL(043)225-6366・FAX(043)225-6331
■ 水戸支店	〒310-0026	水戸市泉町1丁目2番4号 水戸泉町第一生命ビルディング8階 TEL(029)303-2055・FAX(029)233-2566
■ 宇都宮支店	〒320-0811	宇都宮市大通り2丁目3番1号 井門宇都宮ビル7階 TEL(028)614-3655・FAX(028)633-6262
■ 高崎支店	〒370-0828	群馬県高崎市宮元町212番地 高崎宮元町ビル9階 TEL(027)395-4811・FAX(027)395-0678
■ 仙台支店	〒980-0014	仙台市青葉区本町2丁目3番10号 仙台本町ビル6階 TEL(022)266-2741・FAX(022)266-1575
■ 青森支店	〒030-0802	青森市本町1丁目2番15号 青森本町第一生命ビルディング6階 TEL(017)723-4431・FAX(017)723-4427
■ 盛岡支店	〒020-0021	盛岡市中央通3丁目1番2号 盛岡第一生命ビル9階 TEL(019)623-4841・FAX(019)623-4833
■ 郡山支店	〒963-8014	郡山市虎丸町21番10号 EME郡山ビル7階 TEL(024)935-6890・FAX(024)935-6892
■ 山形営業所	〒990-0039	山形市香澄町2丁目2番31号 カーニープレイス山形4階 TEL(023)633-3310・FAX(023)633-3800

## 経営の理念

『わが社は事業を通じ、社会の発展に貢献する。』

1. 業績を高め、株主の期待に応える。
2. 従業員の生活向上と働きがいある企業づくりをめざす。
3. 取引先との共存共栄をはかり、社会との連帯を深める。

## 基本方針

わが社は『経営の理念』のもと、緑豊かな地球を次世代に引き継ぐため、リース事業を幹とした金融サービスを通じ、適切な品質提供と環境保全に取り組みます。

この方針は、全役職員への周知徹底とともに、法令及び当社が同意するその他の要求事項の順守を根に適切性維持のため見直し、継続的に改善します。

## 品質方針

◎ 地域営業基盤を強化するとともに顧客サービスの継続的改善をめざします。

\* 顧客ニーズへの適切な対応

\* 迅速な顧客対応

◎ 営業資産の健全化と与信管理の充実をはかります。

## 環境方針

◎ 天然資源の枯渇防止を目的とし、循環型社会の形成に寄与します。

\* 省資源・省エネルギー・再資源化の推進

\* 環境汚染予防の推進



JQA-QM7707

ISO9001認証取得



MS  
JAB  
CM009



JQA-EM6269本社

ISO14001認証取得

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月下旬
配当金のお支払い	期末配当金は毎年12月31日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者にお支払いいたします。
基準日	毎年12月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して、基準日を定めます。

## 株式事務取扱場所

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

	証券会社に 口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意		単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。
未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。		

上場証券取引所 札幌証券取引所

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、北海道新聞および日本経済新聞に掲載いたします。公告掲載ホームページアドレス  
<http://www.nakamichi-leasing.co.jp/>

## WEBサイトのご案内

中道リース

検索



<http://www.nakamichi-leasing.co.jp/>



「リースについて」には、リースの仕組み、リース対象物件等を公開しております。



「IR情報」ではプレスリリース、決算短信、業績状況、株主通信のバックナンバー等を公開しております。



元気からはじめます。

中道リース株式会社



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。



この冊子は「再生紙」と  
環境に配慮した「植物油  
インキ」を使用しており  
ます。